

「補足資料 (24.9.18) : 手引きの第一課題の「支配させよう、支配せよ」(創世記 1:26b;28c) の今日的課題、「見よ、それは きわめて よかった」総合的なエコロジーへの招き、日本カトリック司教団からの抜粋。

#### 人間活動が招いた気候変動(44 頁)

22 国連は、多くの深刻な災害をもたらし、想定以上の速さで進んでいる現代の気候変動は、もはや気候危機~~だ~~だと表現している。

国連広報センターによれば、気候変動の破滅的影響を受けない場所はありません。気温の上昇は環境を破壊し、自然災害、異常気象、食料と水の不足、経済の混乱などを招き、紛争やテロを助長する。海面は上昇し続け、北極氷原は融解し、サンゴ礁は死滅の危機にさらされ、海洋は酸性化が進み、森林は山火事で失われつつある。

人口五百万人を超える世界の都市の三分の二近くは、海面上昇のリスクにさらされた場所にあり、世界人口のほぼ 40 パーセントは、海面から 100 キロメートル圏内で暮らしているとされている。また、異常気象に関連する災害の頻度と激しさが増し、熱波や<sup>かんぼう</sup>早魃、台風、ハリケーンが猛威を振るう現在、災害の 90 パーセントが気象・気候関連とみなされている。世界経済は毎年 5200 億米ドルに上る損失を被り、2,600 万人が貧困に追いやられている。

#### 1 富裕国の責任

##### 経済格差の拡大

国連は、地球温暖化があらゆる人の食料と水の安全確保に影響を与え、それが主として貧困層や弱者に及びがちなこと、また、世界の最富裕国の経済格差をさらに広げる可能性を高めることを指摘している。

##### エコロジカルな責務

24 富裕国と貧困国の問題に本気で取り組むつもりなら、「エコロジカルな<sup>さいむ</sup>債務」についての確かな理解が求められる。責務を負うのは富裕国の側なのか、それとも貧困国の側なのか~~ああああ~~、そして、債権はどちらの側にあるのか、それを今一度考えなければならない。

真の意味での「エコロジカルな責務」が存在し、なかでも世界の南北間におけるそれは大きく、環境に影響する貿易の不均衡や、ある国々によって長期間行われてきた天然資源の過度の使用につながっています。・・・加えて、毒性のある固形廃棄物や有毒液体廃棄物の開発途上国への輸出と、資金を調達する自国ではおこなうことのできない方法をもって開発途上国で操業する企業が生み出す汚染との起因する被害もあります。(回勅 LS)